

5. 火災時の措置

| | |
|--------------|---|
| 消火剤 | : 水 粉末消火剤、二酸化炭素、泡薬剤 |
| 火災時の特有の危険有害性 | : 加熱分解したガスは、有害なアンモニアガスを含有するので、大量の水又は消火剤を用いて消火する。 |
| 周辺火災の場合 | : 周辺火災の場合は容器を安全な場所に移動する。火災にさらされると濃縮され結晶が析出し、燃焼又は高温によりアンモニア等の有害ガスが生成するので、容器周囲の設備に散水して冷却し分解を抑制する。 |
| 消火を行う者の保護 | : 消火活動は風上から行い、状況に応じた呼吸用保護具を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | : 飛沫の付着やガスを吸入しないようにする。必要な保護具(ゴム手袋、保護眼鏡等)を着用して作業する。 |
| 環境に対する注意事項 | : 排水が河川等に排出されないように注意する。 |
| 除去方法 | : 少量の場合には、乾燥砂・土・おがくず・ウエスなどに吸収させて、密閉容器に回収する。大量の場合には、土嚢等で囲い、流出防止を図り可能な限り回収する。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-----------|--|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | : 換気のよい所で取り扱う。必要に応じて適切な保護具(保護眼鏡、ゴム手袋等)を着用する。 |
| 安全取扱注意事項 | : 漏れ、溢れ、飛散を防ぎ、みだりに蒸気を飛散させない。 |
| 保管 | |
| 適切な保管条件 | : 直射日光を避け、風通しのよい10℃～30℃の暗所で容器又はタンクにて保管 |
| 安全な容器包装材料 | : ステンレス、ポリエチレン、ポリプロピレンの容器 |

8. 暴露防止及び保護措置

| | |
|------------|---|
| 設備対策 | : 取扱いは、全体換気装置を設置した場所で行う。密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。 |
| 管理濃度 | : 設定されていない。 |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | : 設定されていない。 |
| ACGIH | : 設定されていない。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | : 呼吸保護具 |
| 手の保護具 | : 保護手袋 |
| 目の保護具 | : 保護眼鏡・保護面・ゴーグル |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 安全帽・保護服・保護長靴・保護前掛け |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-------|-------------------------|
| 外観 | |
| 物理的状态 | : 液体 |
| 色 | : 無色透明 |
| 臭い | : 本製品は若干アンモニア臭がする場合がある。 |
| 比重 | : 1.09(20℃) |
| 沸点 | : 103℃(32.5%液体) |
| 溶解度 | : 水に可溶 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--|
| 安定性 | : 通常の扱いでは安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | : 強酸化剤等と反応すると火災と爆発の危険性がある。 |
| 混触危険物 | : 強酸化剤、亜硝酸塩、無機塩化物、亜酸素酸塩、過塩素酸塩と激しく反応する。 |
| 避けるべき条件 | : 加熱及び強酸化剤等の混触を避ける。 |
| 危険有害な分解生成物 | : アンモニア、窒素酸化物 |

11. 有害性情報

【本製品に関する情報がないため、尿素(固形)の情報を記載する】

| | |
|----------------|--|
| 急性毒性 | : ラット 経口 LD ₅₀ 8471 mg/kg ラット 気管内投与 LD ₅₀ 567 mg/kg |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : 有り |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | : 有り |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | : 皮膚感作性: ヒトの皮膚に 10%水溶液適用試験において「感作性なし」と評価されている。 |
| 生殖細胞変異原性 | : Ames 試験 陰性 染色体異常試験 ハムスター(生体外) 陽性 |
| 発がん性 | : ラット又はマウスの経口による慢性毒性・発がん性スクリーニング試験で、いずれの動物種とも腫瘍発生頻度の増加は認められていない。 |
| 生殖毒性 | : データなし |

12. 環境影響情報

【本製品に関する情報がないため、尿素(固形)の情報を記載する】

| | |
|---------|------------------------------|
| 残留性/分解性 | : 易分解性 |
| 生態蓄積性 | : データなし |
| 生態毒性 | : ウグイ 危険濃度 16000~30000ppm 以上 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 残余廃棄物 | : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し適切に処理する。 |
| 汚染容器及び包装 | : 内容物を完全に除去した後、地方自治体の基準に従って適切に処理する。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|-------------|---|
| 国際規制 | |
| 国連分類 | : 国連定義の危険有害物に該当しない。 |
| 国連番号 | : 非該当 |
| 輸送の安全対策及び条件 | : 容器の破損、漏れがないことを確認する。荷崩れ防止対策を確実に行う。取り扱い及び保管上の注意の項記載に注意し、適切な容器、ローリーにて輸送する。 |

15. 適用法令

| | |
|---------|--|
| 海洋汚染防止法 | : 施行令別表第 1 有害液体物質 Z 類物質 |
| 水質汚濁防止法 | : 生活環境汚染項目 (法第 2 条, 施行令第 3 条, 排水基準を定める省令第 1 条別表第 2) [窒素含有量] |

16. その他の情報

引用文献

- 国際化学物質安全性カード
- JETOC/KASHIN(日本化学物質安全情報センター)
- NIOSH: REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCE, Jan.2001,

GHS 分類方法 JIS Z 7253:2019「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法」

その他

記載内容は現時点で入手できた資料、情報に基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあり、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としておりますので、特別な取り扱いをする場合は用途・用法に適した対策を新たに講じるようお願いいたします。

問い合わせ先

担当部門 営業本部 大阪ケミカル営業部
当社和歌山工場

電話番号：06-6532-5591

電話番号：073-423-2291